

第29回 あすなろ夢建築

大阪府公共建築設計コンクール

入選作品集

テーマ：にぎわいがうまれる空間

課題：大阪府営蜻蛉池公園

大芝生広場に立地する休憩所

コンクール概要

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、大阪府内に所在する建築関連学科のある工業高校や専修学校等に在籍する学生・生徒から提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

テーマ

にぎわいがうまれる空間

主な設計条件

- 〔課題〕 大阪府営蜻蛉池公園 大芝生広場に立地する休憩所
- 〔所在地〕 大阪府岸和田市三ヶ山町大池尻
- 〔計画地面積〕 約 23,000 m²
- 〔建築面積〕 50 ~ 100 m²程度
- 〔構造〕 木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造 等
- 〔規模〕 平屋建て

作品受付期間

令和2年1月8日(水) ~ 令和2年1月15日(水)

応募状況

- 〔応募校数〕 14校
- 〔応募作品数〕 249点(うち 第1部 62点、第2部 187点)
- 〔応募者数〕 308人(うち 第1部 89人、第2部 219人)

第1部

大阪市立工芸高等学校
大阪府立今宮工科高等学校
堺市立堺高等学校

大阪市立都島工業高等学校
大阪府立西野田工科高等学校

第2部

大阪建設専門学校
大阪総合デザイン専門学校
大阪府立大学工業高等専門学校
修成建設専門学校
日本理工情報専門学校

大阪工業技術専門学校
大阪府立北大阪高等職業技術専門学校
近畿職業能力開発大学校
中央工学校 OSAKA

応募資格

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校(工科高等学校)・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、職業能力開発促進法に基づく高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は3名以下のグループでの応募とした。

募集区分

- 〔第1部〕 工業高等学校(工科高等学校)に在籍する生徒
- 〔第2部〕 短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生

入選作品と賞

グランプリ1点、準グランプリ1点、優秀作品賞2点、佳作3点、奨励賞3点の計10点を入選作品として選出。ただし、第1部と第2部からそれぞれ2点以上の入選作品を選出することとした。

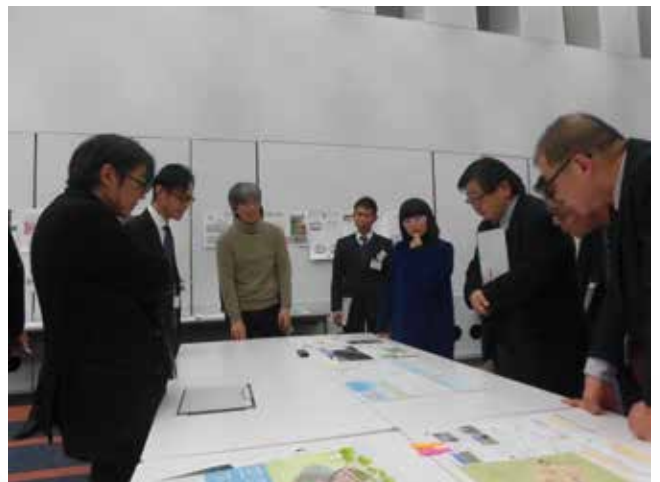
作品展示

場所及び期間

- ①大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー)2階エントラスホール
令和2年2月21日(金)~令和2年2月28日(金)
- ②大阪府本館 1階ロビー
令和2年2月28日(金)~令和2年3月6日(金)



審査会会場



審査の様子

審査委員

〔審査委員長〕
岩田 章吾
(武庫川女子大学短期大学部生活造形学科教授)

〔審査委員〕
下村 泰彦
(大阪府立大学大学院
人間社会システム科学研究科教授)

角田 暁治
(京都工芸繊維大学 デザイン・建築学課程准教授)

堀部 直子
(株式会社 Horibe Associates)

村田 勝博
(大阪府都市整備部都市計画室公園課長)

寺本 武司
(大阪府住宅まちづくり部公共建築室長)

総評

本年度も多数の応募があったことも喜ばしい限りです。今回は昨年までとは異なり、建物単体だけではなく、大芝生広場全体をいかに活性化するかアイデアを求めるものでした。従来とは異なる課題となっている点、建築単体を越える広範な広場を視野においた提案を求めている点において、応募者が、課題をこなしきれないのではという心配をしていましたが、高校生の部である第1部と専修学校生等の部である第2部のそれぞれから大変魅力的な案が多数寄せられ、審査員の心配が杞憂に終わったこと大変頼もしく、うれしく思っています。

全体的な印象としては、細かい機能的な要求や制約が少なかったためでしょうか、のびのびとした提案が多かったように思います。そのなかでも、入選作品は例年にまして、デザインのユニークさと洗練度が高かったように思います。特にグランプリ・準グランプリの二作品は、完成度が高くどちらがグランプリになってもおかしくないレベルでした。

本コンクールは、事業化を前提としていますので、コストや管理上の優劣が審査に大きく影響します。しかしそういった制約を越えて、今回のような案に出会えたことは、審査員冥利に尽きる喜びです。

最後になりますが、本紙面を拝借して、入賞された皆様へのお祝いと、このコンクールに作品を提出された皆様、そしてそのご指導に当たられた先生方のご努力に対する御礼を申し上げます。

さきもり けんご 鷺森 健悟 作品 (グランプリ)

あえて建物を強調せず、地形を操作することで居場所をつくりだす洗練された提案である。起伏に沿って設けられた畝が、周辺の水田を連想させ、周辺環境との一体感を演出している点、畝の高さによって、多様な使われ方が想起され、広場利用の可能性を広げている点などによりグランプリにふさわしいと判断した。建築的要素として加えられた屋根については、実施に向けてスケールや配置に更なる検討を加えることで、より一層の輝きを獲得することを期待する。

みやけ ただし 三宅 祥仁 作品 (優秀作品賞)

オブジェのような美しいデザインであり、通常時の休憩所としてだけでなく、イベントなどの発信の場としてや、災害時の更衣室や、授乳室としてなど多様な利用の可能性を秘めた優れたデザインである。内部舞台へのアプローチが限定的であり、架構の開放性を活かさきれていない点が残念である。

ささき ゆい こんどう さや 佐々木 優衣・近藤 紗弥 作品 (佳作)

休憩所と子供の遊具を一体化させることで子供と一緒に過ごせる場所の提案となっている点が評価できる。1階を飲食スペース、2階を無料開放スペースなど、新たな利活用の可能性を秘めているが、安全面での懸念が残った。

たけなか ゆうや 竹中 裕哉 作品 (佳作)

いくつもの円形の屋根やベンチが重なり合う美しい提案。すり鉢状の敷地の中心部に、円の持つ求心性と拡散性を活かした建築を配した手腕は評価できる。広場の賑わい創出に向けた工夫があればさらに良かった。

たけなか ゆうき 竹中 友基 作品 (奨励賞)

大地がめくれあがったような上部は展望台、下部は休憩所になるという大胆な提案。賑わい作りのための提案も利用者のニーズを反映したものとなっている。一方、安全性や、維持管理の難しさ、実現のためのコストなどの点に疑問が残った。

やまもり さいか しほもと かな 山森 彩夏・柴本 佳奈 作品 (準グランプリ)

大芝生広場内にとどまらず駐車場からの動線を意識して連続的な体験を提案した数少ない提案の一つ。提案された休憩所は、災害時の利用法も容易に想定できるなど、よく考えられており、グランプリにせまる提案であった。連続するフレームから見える風景や、休憩所で三角形から台形へと変化するフレームの形について疑問が残り、グランプリにわずかに届かなかった。

りん きんけい 林 欣璟 作品 (優秀作品賞)

翼をイメージした一枚の板を折り曲げることで、屋根、建物、遊具、ベンチが生み出されるデザインは洗練されており、実現すれば新しい風景を生み出すであろう。都市公園などに展開しうる普遍性のある提案であるが、その一方でこの広場ならではの工夫という点で弱さを感じた。また、作者のこだわりでもあった木構造による実現は、強度、耐久性の点で疑問が残った。

せい の さき ふじかわ あかね 清野 紗生・藤川 明音 作品 (佳作)

敷地の斜面をたくみに利用し、大芝生広場を見下ろす位置に、大地と一体化するように建物を配置した案である。ボリュームを押さえ風景になじむように計画されている点が評価できる。一方で、屋根に埋め込まれたスタンドグラスのデザインは、やや過剰で、その効果についても疑問が残った。

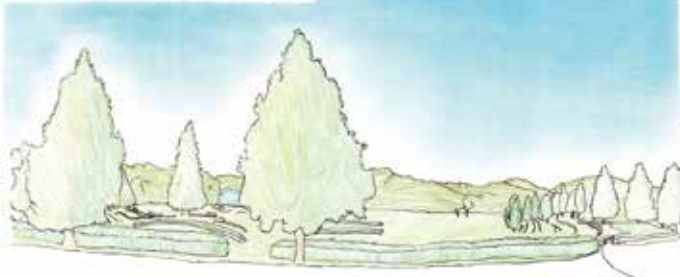
おかもと りょうま 岡本 竜馬 作品 (奨励賞)

列柱と切妻屋根による小屋というシンプルな構成は風景になじむ、受け入れられやすいデザインとなっている。ただし、意図的なデザインなのだろうが、コンクリートの列柱がスケールアウトしており、内部の使い勝手を圧迫している点が気になった。

まつもと めぐみ 松本 恵 作品 (奨励賞)

地元材を使用した合理的な木構造や、工コを意識したクールチューブの設置など、現実性の高い提案を行っており好感が持てる。その一方で、構築物と提案しているアクティビティの関係という点においては、説得力が弱く、この施設によって、どのような賑わいが生まれるのかが不明であった。

1202



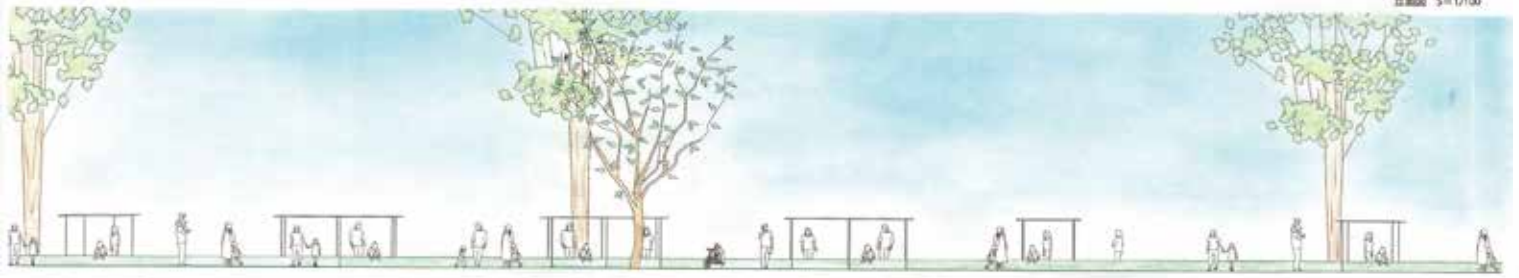
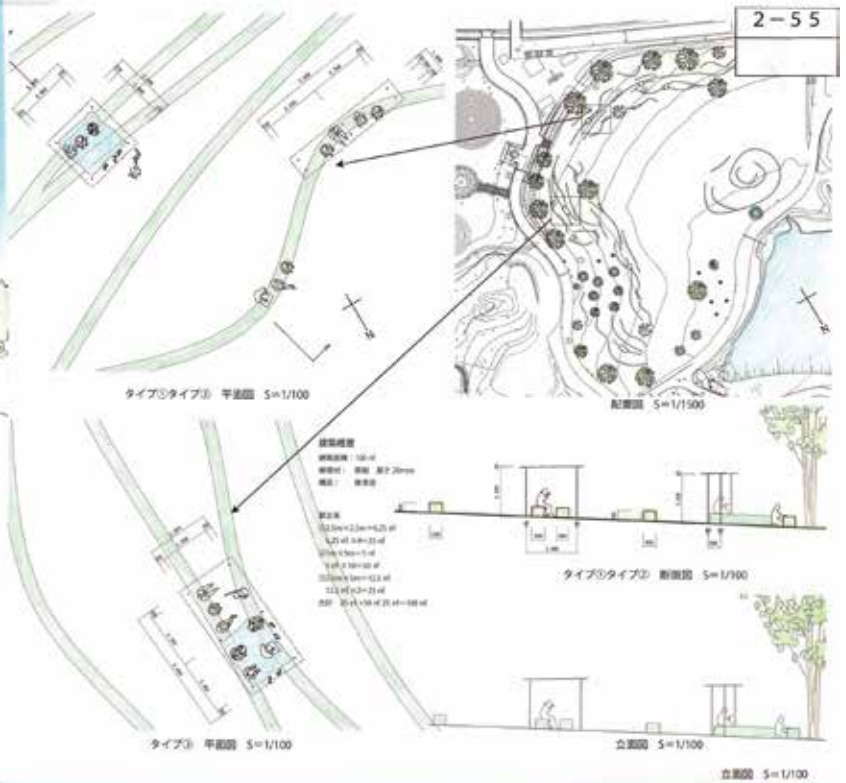
○コンセプト
自然(池)と人工物(遊具)の「あいだ」を繋ぐもの。
公園の遊具と池のあいだを繋ぐものとして、大芝生広場に建築よりも原始的なものを計画し、大芝生広場のアップデートします。そのため(第2)回全国育樹祭の際に作成された既存のステージの土を取り、その土を活かし、1,202mのベンチ(畝)を作り、その上に100㎡の軽やかな屋根を架けます。

○おそれずのあたり
この大芝生広場では自然から公園の自然性を利用したい方向がありました。それは広場の中央で遊び回る子供たちとその周囲を囲むようにベンチシートを配置している建築の設計でした。そのベンチシートを広く取り、屋根を架けることで、その時に遊具場を固定するようながらもこの広場の良さを出せたいという思いからある「屋根を架ける」という行為を執りました。建築が自然の良さを引き出し、自然性をもたらすために建物らしいものとはせず、安心感の良さを引き出し、利用者から心地へ快楽と感じられるような空間を目指します。

○休憩所の考え方
なにも屋根のものではないですが、このように利用者が遊びながら、健康的に休憩しと帰るものになると思います。

○コスト
①全面積約100㎡の土を確保
②100㎡の屋根を架ける
③100㎡の遊具場を架ける
④利用者が楽しめる、芝生が広がる
⑤利用者が楽しめる

①土の採取場所
②土の採取量
③土の採取方法
④土の採取場所
⑤土の採取量
⑥土の採取方法



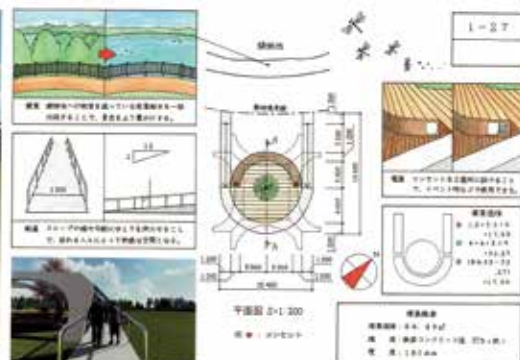
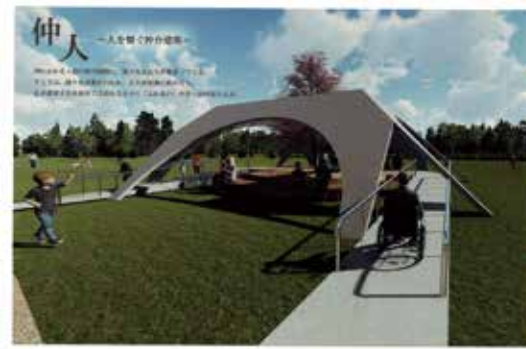
グランプリ

さぎもり けんご
鷺森 健悟

大阪工業技術専門学校

「1202」

自然(池)と人工物(遊具)の「あいだ」を繋ぐもの。公園の遊具と池のあいだを繋ぐものとして、大芝生広場に建築よりも原始的なものを計画し、大芝生広場のアップデートします。そのために第23回全国育樹祭の際に作成された既存のステージの土を取り、その土を活かし、1,202mのベンチ(畝)を作り、その上に100㎡の軽やかな屋根を架けます。



優秀作品賞

みやけ ただし
三宅 祥仁

大阪市立都島工業高等学校

「仲人～人を繋ぐ仲介建築～」
休憩所を敷地の中央上部に配置することで、広場全体を見渡すことができ、アクセスのし易い配置計画とした。また、シンボルツリーを建物中央に配置し、開放的な「開けた」空間とすることで、建物の4面全てを休憩所の「顔」とした。こうすることで、どの面も外部に接する、明るく眺めの良い空間となるだけでなく、使う人が主役となり、様々な活動が行える休憩所となる。



REFINE LANDSCAPE

CONCEPT

私たちがとった来園客のアンケートでは、「今ある風景が好きなので休憩所は欲しくない」という声が多かった。今回、私たちは原風景を大切にしながら大芝生広場の豊かなランドスケープをより多くの人に知ってもらえるきっかけとなるような休憩所を計画した。

休憩所が広場から見える歩道橋や階段を設けることで、フィールドに溶け込むような広場となる。またオープンな構造になるが、公園入口から大芝生広場に続く道には休憩所と一体となる大内郭のオブジェを配置し、必然的に休憩所へと誘引されるきっかけを計画した。

WAYFINDING

2-131

SPEND THE

休憩所を設けることで歩道橋の風景を楽しむことができる。駐車場や歩道橋などで大芝生広場への誘導にもなる。自分が歩きたいルートに参加することでさらに豊饒な風景となる。

建築概要

建築面積: 12.90㎡	主構造: 木	構造形式: 木造(柱・梁・土間工法)
坪数: 40	外観: 屋根(丸天井・ガラス)	建設工事費: 2,800万円
1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.	造作: ガラス・金属・木材	※ガラスはオプション設置
11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20.	造作: ガラス・金属・木材	

EYE LINE

「大芝生広場」
「山と池」
「消費多量機と遊具」

PLAN

高さ断面 S=1.100
東立面断面 S=1.100
北立面断面 S=1.100
西立面断面 S=1.100

ATTITUDE

「影が落ちるには影」
三翼から成るのグラーブは、遊び場の2.5DのKの要素を具現。両翼によって様々な見え方を見ることが出来る。細き要素から成ることで広場の風景が壊れることなく、自然な風景の中に溶け込む。また、影の落ちる方向によって、様々な見え方を見ることが出来る。また、影の落ちる方向によって、様々な見え方を見ることが出来る。

PLAN

高さ断面 S=1.100
東立面断面 S=1.100
北立面断面 S=1.100
西立面断面 S=1.100

準グランプリ

やまもり さいか しほもと かな
山森 彩夏 柴本 佳奈

近畿職業能力開発大学校

「REFINE LANDSCAPE」

私たちがとった来園客のアンケートでは、「今ある風景が好きなので休憩所は欲しくない」という声が多かった。今回、私たちは原風景を大切にしながら大芝生広場の豊かなランドスケープをより多くの人に知ってもらえるきっかけとなるような休憩所を計画した。(一部抜粋)

TUBE 翼 SA K陰 E

翼のような自由な休憩スペース

翼陰

羽ばたく翼が連なるような4つの建築群がやさしい陰を生み、様々な休憩や駐輪のスペースを生みだします。

【自然】独特な形状のデザインは自然界形をイメージしています。
【形状】自由でランダムな空間で構成されています。
【生活習慣】自由な空間が多目的な利用を生み出します。

優秀作品賞

りん きんけい
林 欣璟

修成建設専門学校

「翼陰」

羽ばたく翼が連なるような4つの建築群がやさしい陰を生み、様々な休憩や駐輪のスペースを生みだします。

【自然】独特な形状のデザインは自然界形をイメージしています。
【形状】自由でランダムな空間で構成されています。
【生活習慣】自由な空間が多目的な利用を生み出します。

佳作

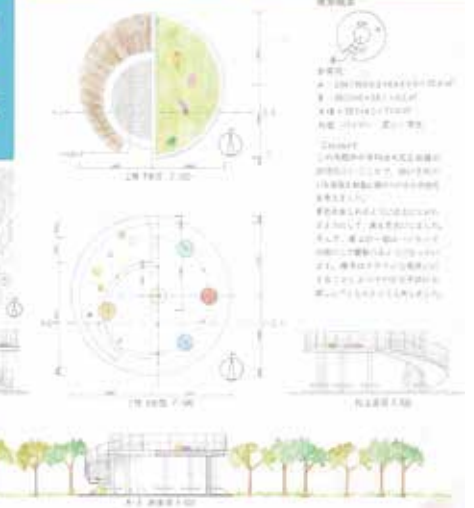
佳作 ^{ささき}佐々木 ^{ゆい}優衣・^{こんどう}近藤 ^{さや}紗弥

大阪市立工芸高等学校
「空の下で」

この休憩所の目的は大芝生広場の活性化ということで、幼い子供がいる家族を対象に遊び心のある休憩所を考えました。景色を楽しめるように屋上に上がれるようにして、床も芝生にしました。そして、屋上の一部はハンモック仕様にして寝転べるようになっています。椅子はカラフルな色使いにすることによって小さな子供にも親んでもらえるよう工夫しました。



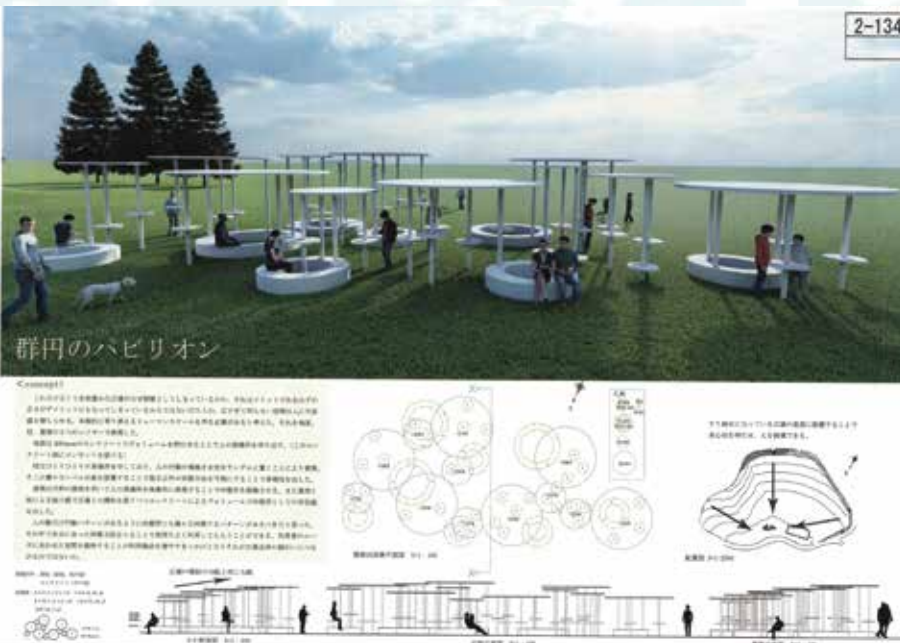
空の下で



佳作 ^{せい}清野 ^{さき}紗生・^{ふじかわ}藤川 ^{あかね}明音
近畿職業能力開発大学校
「学び × 遊び@休憩所」

学ぶとは経験することによって知ること。遊ぶとは好きなことをして楽しい時間を過ごすこと。誰でも聞いたことのあることわざに「よく学びよく遊べ」とある。このことわざの通り、勉強する事も遊ぶ事も大切である。蜻蛉池公園を知るために現地調査をした時、よく親子連れを見かけたので親子連れが訪れたくなるように親は休憩できて子供たちは子供たち同士と一緒に学び、遊べる休憩所を設計した。

佳作 ^{たけなか}竹中 ^{ゆうや}裕哉
修成建設専門学校
「群円のパビリオン」



これだけ広くて自然豊かな広場がなぜ閑散としてしまっているのか、それはメリットであるはずの広さがデメリットにもなってしまっているからではないだろうか。広すぎて何も無い空間は人に不安感を積もらせる。本能的に寄り添えるヒューマンスケールを作る必要があると考えた。それを地面、柱、屋根の3つのレイヤーで表現した。人の数だけ行動パターンがあるように休憩所にも様々な休憩するパターンがあるべきだと思った。その中で自分に合った休憩方法をとることで気持ちよく利用してもらうことができる。(一部抜粋)

29回「あすなる夢建築」大阪府公共建築設計コンクール 蛸蛉池公園大芝生広場内休憩所

1-19

和風の休憩所



設計趣意
 和は、「和」な感じが好きなので、「和」が感じられる休憩所にしました。屋根を支える骨組みは、小断面の丸太にし、床には安価で厚みのある足場板を用いました。和風屋台を用いた食のイベントを行う際に、休憩所は管理運営の本部となります。点在する屋台とともに休憩所をライトアップすると、美しい景色になると思います。

奨励賞 ^{たけなか ゆうき} 竹中 友基 大阪工業技術専門学校 「カモフラージュ」

大芝生広場の隆起する自然地形に溶け込んだデザインを心掛けた。特徴としては自然に馴染むように地面から生えてきたかのような形状のスラブは屋根と床となっていてシンプルな見た目である。シンプルにしたのは建設コストや周りの風景を壊さないように目立たないようにしたかったからである。又、この休憩場は全体的に曲線を活かしたデザインにしている。理由としては人工的な直線的なものより自然な曲線美を施すことで広場に自然と溶け込み、人々を自然の一部になった気分させリラックス出来る憩いの場にしたいと思ったからである。(一部抜粋)

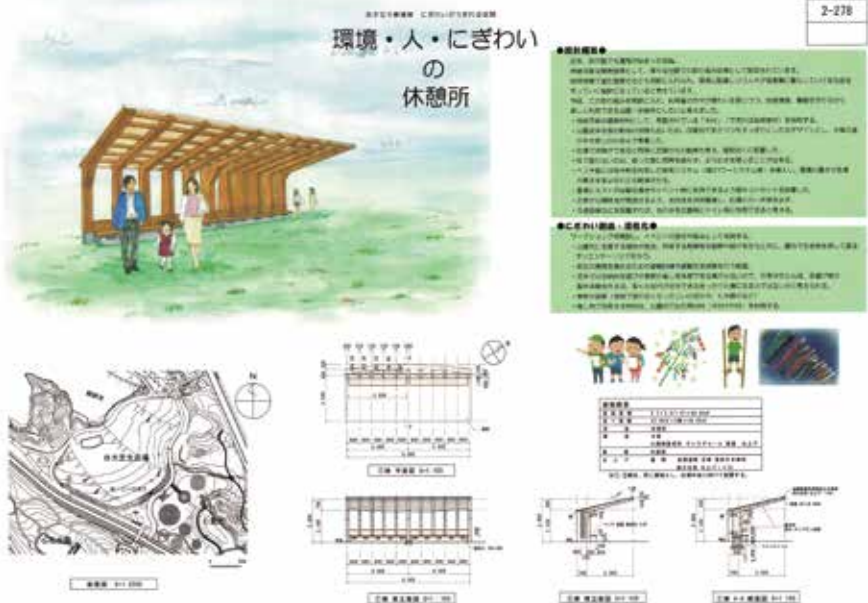


おかもと りょうま
 奨励賞 岡本 竜馬
 大阪府立西野田工科高等学校
 「和風の休憩所」

私は、「和」な感じが好きなので、「和」が感じられる休憩所にしました。屋根を支える骨組みは、小断面の丸太にし、床には安価で厚みのある足場板を用いました。和風屋台を用いた食のイベントを行う際に、休憩所は管理運営の本部となります。点在する屋台とともに休憩所をライトアップすると、美しい景色になると思います。

まつもと めぐみ
 奨励賞 松本 恵
 大阪府立北大阪高等職業技術専門学校
 「環境・人・にぎわいの休憩所」

近年、我が国でも運用が始まったSDGs。持続可能な開発目標として、様々な分野での取り組み目標として設定されています。地球規模で進む温暖化なども視野に入れられ、環境に配慮しつつ人々が有意義に暮らしていける社会を作っていく指針になっていると考えています。今回、この取り組みを視野に入れ、利用者の方々が賑わいを感じつつ、地域環境、景観を守りながら楽しく利用できる公園・休憩所にしたいと考えました。



主 催 大阪府 公益社団法人 大阪府建築士会 大阪府住宅供給公社

後 援 大阪府教育庁 一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

協 賛 一般社団法人 日本建築協会
一般社団法人 大阪府建築士事務所協会
公益社団法人 日本建築家協会近畿支部大阪地域会
一般財団法人 大阪建築防災センター
一般財団法人 日本建築総合試験所
一般社団法人 公共建築協会
公益社団法人 日本建築積算協会関西支部
公益財団法人 建築技術教育普及センター近畿支部

「あすなる夢建築」大阪府公共建築設計コンクール事務局
大阪府住宅まちづくり部公共建築室計画課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
TEL : 06-6941-0351 (代表) 令和2年3月発行